佛書解說大辭典

大東出版社藏版

佛教研究所圖書館藏書章

昭和 8 年11月20日　初版発行
昭和39年 5 月 1 日　改訂発行
昭和55年 3 月20日　重版発行

仏書解説大辞典　第三巻
¥　7000

版権
所有

編纂者　小　野　玄　妙
発行者　岩　野　真　雄
印刷者　村　雲　二　郎

発行所　株式会社　大東出版社

東京都文京区白山 1 丁目37番10号
電話　(816) 7 6 0 7

印刷所　株式会社　平　文　社

3515-050003-4384

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小册子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に內容解說を施し、且つその所在を明示したものである。

一、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。卽ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮內省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より僞經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採錄した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。卽ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其內容解說にあたつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解說をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解說するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類卽ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出來る丈內容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形體はその要點を次の十項目とした。即ち、❶題名、書名、具名略名異名併記。❷卷數。❸存、缺。❹著者又は譯者、生存年代を併記。❺著作年代又は譯出年代。❻内容解説。❼末書（注釋書參考書）。❽寫刊の年月。❾現所藏者、圖書館書庫名。❿發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は❽❾❿を省略し、第三類は特に❾の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は❿の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は❼の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が❻に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

❶、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本音、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本音の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に從つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異る點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウヰード氏の式に從つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼目錄—昭和四年刊）に從ふことにした。

❷、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の不同なる場合あるものは一々これを附記した。

❸、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷號を記した。而して各種藏經及び目錄

には左の如く略符號を使用した。玆に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。Nj.——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄(法經等撰)。仁壽錄——衆經目錄(彥悰撰)。靜泰錄——衆經目錄(靜泰撰)。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋教錄。貞元錄——貞元新定釋教目錄。佛全——大日本佛教全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

❹、著者又は譯者は其人の生存年代を出來る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に讓るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西曆を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中—線を用ひ「年代—年代」なるは生死年を、「年代—」は生年、「—年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「—年代—」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「?」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸說あるものは其中の一を採用若しくは一說として別出したものがある。

❺、著作年代は著作若しくは譯出の年號を記入した。

❻、內容解說は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典飜譯に關する歷史的說明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

た題名の箇所に於て說明した。例へばクの部「倶舍論」ではその題下に具名「阿毗達磨倶舍論」と記し、詳細なる解說はアの部「阿毗達磨倶舍論」に於てなしたるが如し。

❼、注釋書參考書は典據を出來る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に從つて列擧した。

❽、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

❾、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の函號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都(東寺)專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶龜院——高野山寶龜院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下の數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者(書庫)、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

ケ

希有校量功德經 ❶(日)Ke-u-kyō-ryō-ku-dok-kyō. (支)Hsi-yu-hsiao-liang-kung-tê-ching. 校量功德經 ❷一卷 ❸存、大正一六・七八三No. 690、縮宙八、卍一〇・七、北252傷、南255傷、元257傷、明北264長、清264長、麗249毀、天258傷、指239毀、法233毀、至325改、明南253効、Nj. 268 ❹闍那崛多譯 ❺隋開皇六(A. D. 586) ❻本經は、唐の玄奘譯最無比經と同本異譯。但し最無比經には三聚戒を說いてゐるが、本經にはない。この他は新舊譯語の相違と字句の詳略の相違あるのみ。本經は三歸依の功德利益を明し、四洲、三千世界の功德と三歸依との功德を比較し、三歸依の福德は百倍千倍萬倍であるといひ、次に三竟を說き若し三竟して一彈指の間でも十善戒・八戒齋・沙彌戒・沙彌尼戒・式叉摩那戒・比丘尼戒・大比丘戒を受持せば所得の功德は前に述べた功德の百倍千倍萬倍千億倍し、波羅提木叉戒によつて如說修行し缺犯しなければ、前に勝れた百倍千倍百千萬倍の功德を得ると說き、三歸・十戒・具足戒・波羅提木叉戒を受持するものの功德には希有の功德ありといふ。要するに戒德を唱導した經の一である。 ❼〔參考〕 法經錄第一、三寶紀第一二、內典錄第五、譯經圖紀第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 (田島德音)

化義三十七箇條 ❶(日)Ke-gi-san-jū-shichi-ka-jō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(立大、D〇・二七一)

化教六念法解 ❶(日)Ke-gyō-roku-nem-pō-ge. ❷一卷 ❸存 ❹性亮(—元祿五A. D. 1692—)撰 ❺元祿六刊 ❹(正大、一〇八・八一)(龍大)

化珠保命眞經 ❶(日) Ke-ju-ho-myō-shin-gyō. (支) Hua-chu-fu-ming-chên-ching. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(京大、藏・一ヵ・一)德川末期寫(高大、寄・一・二三)

化城斷理大事及切繼法門 ❶(日) Ke-jō-dan-ri-dai-ji-oyobi-kiri-tsugi-hō-mon. ❷一卷 ❸存 ❺寬元一一寫 ❹(谷大、餘大・三二三八)

化身土卷要門章管解 ❶(日)Ke-shin-do-no-maki-yō-mon-shō-kwan-ge. ❷一卷 ❸存 ❹利井鮮明(天保六—大正三 A. D. 1835—1914)述、西田眞了記 ❺明治三四寫 ❹(帝國、八二・二八一)

化身土文類科節辨意 ❶(日)Ke-shin-do-mon-rui-kwa-setsu-benn-i. ❷一卷 ❸存 ❹道振(安永二—文政七 A. D. 1773—1824)述 ❹寫本(龍大、一二三一・二、研眞)

化身土文類六考 ❶(日) Ke-shin-do-mon-rui-rok-kō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、一二三一・一三二)

化身土要身義 ❶(日)Ke-shin-do-yō-shin-gi. ❷三卷 ❸存 ❹南溪(天明三—明治六 A. D. 1783—1873)述 ❹寫本(龍大、一二三一・一三三)

化他五重 ❶(日) Ke-ta-go-jū. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五五二・一九七)

化他五重儀式 ❶(日) Ke-ta-go-jū-gi-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五五二・一九六)

化他五重口決 ❶(日) Ke-ta-go-jū-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹風航了吟(—享和二 A. D. 1802)撰 ❹寫本(谷大、宗大・一九三六、一二五五)

化他五重相承口決 ❶(日)Ke-ta-go-jū-sō-jō-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五五二・一九二)

化他五重相承式 ❶(日) Ke-ta-go-jū-sō-jō-shiki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、宗大・一九二四)

化他五重傳 ❶(日) Ke-ta-go-jū-den. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五五二・二〇〇)

化他五重傳法要偈說 ❶(日)Ke-ta-gō-jū-dem-bō-yō-ge-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一五五二・一九九)

化他五重附法口決錄 ❶(日)Ke-ta-go-jū-fu-hō-ku-ketsu-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、宗大・一七四一)

化土卷正雜二行分別諺解 ❶(日)Ke-do-no-maki-shō-zō-ni-gyō-fum-betsu-gen-ge. ❷一卷 ❸存 ❹寶雲(寬政三—弘化四 A. D. 1791—1847)述 ❹寫本(龍大、一二三一・一三三)

化土卷眞門章記 ❶(日)Ke-do-no-maki-shim-mon-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹南英(文政五—明治四〇 A. D. 1822—1907)述 ❹寫本(龍大、一二三一・一三四)

化土卷專修雜修問答記 ❶(日) Ke-do-no-maki-sen-jū-zas-shu-mon-dō-ki. ❸存、十一部雜纂之內 ❹寫本(龍大、一〇三・六)

化土卷要門章擎珂史 ❶(日)Ke-do-no-maki-yō-mon-shō-kyō-ka-shi. ❷一卷 ❸存 ❹僧亮(文化六—安政六A. D. 1809—1859)述 ❹寫本(龍大、一二三一・一三七)

化土卷錄 ❶(日) Ke-do-no-maki-roku. ❷三卷 ❸存 ❹月珠(—安政三A. D. 1856)述 ❹寫本(龍大、一二三一・一三八)

化度寺錄 ❶(日) Ke-do-ji-roku. (支)Hua-tu-ssŭ-lu. ❸缺 ❺唐武德年間(A. D. 618—626) ❻武周刊定衆經目錄第一。大乘單譯經目の中を見ると「淨六波羅蜜經一卷、右東晉代佛陀跋陀羅譯、出化度寺錄」なる說明があり、この種の引用は他にも二三存する所である。爰に云ふ化度寺は陝西省西安府にあつたもので、隋文帝の開皇年中、左僕射齊國公高熲なるもの、其の居宅を捨てゝ寺となし、三階普法佛法の始祖信行の住院たらしめし眞寂寺のことをいふものである。長安志第十に依るに「化度寺本眞寂寺(中略)武德二年改化度寺、寺中有無盡藏院、敬宗賜化度院金文額文」とある。つまり、本錄はこの化度寺內の無盡藏院の經藏目錄である。然し現存しない爲にその內容組織は明かでない。猶、本錄は眞寂寺內の無盡藏院

の經錄ではあるけれども、眞寂寺錄といふものとは別個のものである。
❼〔參考〕大周刊定衆經目錄（林屋友次郎）

化卷眞門章記 ❶(日) Ke-no-maki-shim-mon-shō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹南溪(天明三—明治六 A. D. 1783—1873)述 ❾寫本(龍大、研眞)

化卷眞門章講述 ❶(日) Ke-no-maki-shim-mon-shō-kō-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹僧亮(文化六—安政六 A. D. 1809—1859)述 ❾寫本(龍大)

化卷要門章自錄 ❶(日) Ke-no-maki-yō-mon-shō-ji-roku. ❷一卷 ❸存 ❹南溪(天明三—明治六 A. D. 1783—1873)述 ❾寫本(龍大、研眞)

化譬經 ❶(日)Ke-hi-kyō. (支) Hua-p'i-ching. 化喩經 ❷一卷 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記第四、三寶紀第五、內典錄第二

化喩經 ❶(日)Ke-yu-kyō. (支)Hua-yü-ching. 化譬經 ❷一卷 ❻雜譬喩經の抄出 ❼〔參考〕仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

化用集 ❶(日) Ke-yū-shū. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一〇八・二六)

化用便覽 ❶(日) Ke-yū-ben-ran. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(正大、一〇八・二五)

加行折紙 ❶(日)Ke-gyō-ori-kami. ❷一裏 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

加行折紙類 ❶(日)Ke-gyō-ori-kami-rui. ❷一括 ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

加行禁斷條之事 ❶(日) Ke-gyō-kin-dan-jō-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❺德川初期寫 ❾(寶龜院)

加行護摩壇圖 ❶(日) Ke-gyō-go-ma-dan-zu. ❷一裏 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

加行作法 ❶(日)Ke-gyō-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)

加行作法 ❶(日)Ke-gyō-sa-hō. 三寶院加行作法 ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)

加行作法 ❶(日)Ke-gyō-sa-hō. 山外行法日數加行作法 ❷一裏 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

加行作法 ❶(日)Ke-gyō-sa-hō. 中院流加行作法 ❷一裏 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・六二)

加行作法折紙並護身法印信等 ❶(日)Ke-gyō-sa-hō-ori-kami-narabini-go-shim-bō-in-jin-tō. ❷五紙一結 ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

加行作法祥流鈔 ❶(日) Ke-gyō-sa-hō-shō-ryū-shō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)〈金剛三昧院〉

加行者可守條々 ❶(日) Ke-gyō-sha-mamoru-beki-uo-jō-jō. ❷一紙 ❸存 ❺寶曆一三寫 ❾(寶龜院)

加行諸作法 ❶(日) Ke-gyō-sho-sa-hō. ❷一包 ❸存 ❺足利末期寫 ❾(金剛三昧院)

加行抄 ❶(日)Ke-gyō-shō. ❷十卷 ❸存 ❾(京大、印哲・〇・四七)

加行制禁 ❶(日) Ke-gyō-sei-gon. ❷一帖 ❸存 ❾享保一四寫(高大、寄・一・六二)

加行並支度 ❶(日) Ke-gyō-nara-bini-shi-taku. ❷一紙 ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

加行日記 ❶(日) Ke-gyō-nik-ki. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶菩提院)〈寶龜院〉

加行日記等 ❶(日)Ke-gyō-nik-kitō. ❷一括 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(寶菩提院)

加行日數 ❶(日)Ke-gyō-nis-sū. ❷一紙 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

加行目錄 ❶(日)Ke-gyō-moku-ro-ku. ❷一裏 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

灰河經 ❶(日)Ke-ka-kyō. (支) Hui-ho-ching. 塵灰河譬喩經 ❷一卷 ❹失譯 ❻雜阿含經第四十三卷の抄出 ❼〔參考〕出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

快樂院古學振起遺講 ❶(日)Ke-raku-in-ko-gaku-shin-ki-i-kō. ❷一卷 ❸存 ❹占部觀順(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)述、香川晃月編 ❺明治三六刊 ❾(谷大、宗大・一〇七〇)(龍大、研眞)

快樂院語錄 ❶(日) Ke-raku-in-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹占部觀順(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)述、香川晃月編 ❺明治四三刊 ❾(龍大、研眞)

快樂院談話集 ❶(日)Ke-raku-in-dan-wa-shū. ❷二卷 ❸存 ❹占部觀順(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)述 ❾明治三一刊第一編(谷大、宗洋・四九)明治三二刊第二編(谷大、宗洋・五八)

快樂院談話全集 ❶(日) Ke-raku-in-dan-wa-zen-shū. ❷一卷 ❸存 ❹占部觀順(文政七—明治四三 A. D. 1824—1910)述、禿林春濤編 ❺明治三二刊 ❾(龍大、一〇五一・九、研眞)(谷大、宗大・三五九)

快樂院と信徒との問答 ❶(日) Ke-raku-in-to-shin-to-to-no-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❺明治三二刊 ❾(谷大、宗小・五八)

芥入須彌稿 ❶(日)Ke-nyū-shu-mi-kō. ❷一卷 ❸存 ❹以天宗海(或、伊天)撰 ❼〔參考〕禪籍目錄

悔過除罪經 ❶(日)Ke-kwa-jo-zai-kyō. (支) Hui-kuo-chu-tsui-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

悔過法經 ❶(日) Ke-kwa-hō-gyō. (支)Hui-kuo-fa-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹後漢安世高(一建和二—建寧三 A. D. 148—170—)譯 ❼〔參考〕武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第二五

悔過法經 ❶(日) Ke-kwa-hō-gyō. (支) Hui-kuo-fa-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹吳支謙(一黃武二—建興二 A. D. 223—253—)譯 ❼〔參考〕開元錄第一五、貞元錄第二五

假名集 ❶(日) Ke-myō-shū. (支) Chia-ming-chi. ❷十卷 ❸缺 ❹宋假名如湛(一紹興一〇A.D. 1140)撰 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二

華王院覺海法印法語 ❶(日)Ke-ō-in-kak-kai-hō-in-hō-go. 諸口傳鈔 ❷一帖 ❸存 ❺寬保二寫 ❹(金剛三昧院)

華光經 ❶(日)Ke-kō-gyō. (支) Hua-kuang-ching. ❷一卷 ❹疑僞經 ❼〔參考〕武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

華嚴一乘開心論 ❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kai-shin-ron. (支) Hua-yen-i-ch'êng-k'ai-hsin-lun. 華嚴宗一乘開心論、華嚴開心論 ❷六卷(現在卷下本一卷餘闕) ❸存、大正七二・一No. 2326、日本大藏經華嚴宗章疏卷下、大日本佛敎全書第一三華嚴小部集 ❹普機述 ❺天長七(A. D. 830)

華嚴一乘義私記 ❶(日) Ke-gon-ichi-jō-gi-shi-ki. ❷一卷 ❸存、大正七二・一四No. 2327 ❹增春撰 ❺天曆年中(A. D. 947—956)

❻華嚴宗の主張する一乘の深義を解說したるもの。要項を擧げれば、(一)に華嚴の字義、(二)に三種一乘義、存三(不ノ破ニ三乘疑執一不ノ會ニ三乘行果一就ニ無我之理一說ニ一乘一)、遮三(會ニ三乘行果一破ニ三乘疑執一說ニ一乘一)、直顯(不ノ對ニ二乘一不ノ會ニ行果一而對ニ普賢大機一直顯ニ法界成佛體一故)の三種を說き、(三)三種三乘義、始別終同(阿含、俱舍等)、始同終別(般若)、近異遠同(法華等)の三乘を明し、(四)五敎、五敎所屬の代表的經論を擧げて敎理の概要を明し、(五)華嚴經の敎主、十身を明し、(六)同別二敎、一乘同敎、三乘同敎の二種同敎、別敎の性海果分、緣起因分を說き、(七)修行依身、分段變易二身を明し、(八)一乘三乘異事、十差別門を明し、(九)法華一乘と華嚴一乘との同異、(一〇)法相師の立量並に三時敎との關係等である。奧書に「此私記三卷之中所要略抄天曆年中大法師增春御釋」とあり、また延寶七年寶性院問津、天保十一年龍珠理海書寫のことが記してある。 (原田靈道)

華嚴一乘義私記條目 ❶(日) Ke-gon-ichi-jō-gi-shi-ki-jō-moku. ❷一卷 ❸存 ❹(京專)

華嚴一乘教義分齊章 ❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kyō-gi-bun-zai-shō. (支) Hua-yen-i-ch'êng-chiao-i-fên-chi-chang. 華嚴五敎章、華嚴經五敎章、華嚴一乘敎分記、華嚴經中一乘五敎分齊義、五敎章、一乘敎分記、華嚴一乘敎分別記、華嚴經分記 ❷四卷或三卷 ❸存、大正四五・四七七No. 1866、縮陽二、卍三四・一〇、明北1584跡、明南1576丹、佛敎大系第一三、Nj. 1591 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元 A. D. 643—712)述 ❻華嚴五敎章の下を見よ ❹正應三寫(谷大、餘甲・六二)弘化四寫(谷大、餘大・四二七六)鎌倉時代刊(寶龜院)慶長一八刊(谷大、長保・九九)慶安四刊(高大、寄・一・一六)寶永四刊(谷大、餘大・二一五研佛)九)(龍大、二六三一・一六)寶曆七刊(龍大、始同終別(般若)、近異遠同(法華等)の三乘を明し、(四)五敎、五敎所屬の代表的經論

華嚴一乘教義分齊章義苑疏 ❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kyō-gi-bun-zai-shō-gi-on-sho. (支) Hua-yen-i-ch'êng-chiao-i-fên-chi-chang-i-yüan-shu. 華嚴一乘分齊章義苑疏、華嚴五敎章義苑疏、五敎章義苑疏、華嚴義苑疏、五敎章道亭疏、義苑疏 ❷十卷 ❸存、卍續二・八・二 ❹宋道亭 ❻仁宗・神宗・哲宗代 A. D. 1023—1100?)撰 ❻華嚴一乘分齊章義苑疏の下を見よ ❹元祿一二刊(正大、一二三・九—一一)(龍大、二六三一・二八)(京專)文化一〇刊 (谷大、長保・一一一)

華嚴一乘教義分齊章科 ❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kyō-gi-bun-zai-shō-kwa. (支) Hua-yen-i-ch'êng-chiao-i-fên-chi-chang-k'o. ❷一卷 ❸存、卍續二・八・二 ❹宋可堂師會(崇寧元—乾道二 A. D. 1102—1166)撰 ❺乾道二(A. D. 1166)? ❻華嚴敎學史上、古來唐本の五敎章と稱する晉水淨源の重校本を分科圖示して、文義章段を明かにしたものである。寬文九年(A. D. 1669)版・華嚴五敎章復古記の卷首に附する般若寺普入の刊行凡例九則の中第三則に「一、敎章及記、先以ノ見ニ別行一恐學者倦ニ於周覽一、今以ノ科安ニ列章上一以ノ記貼ニ附章下一、則文義章段、自燦然焉」と見えて、一部六卷を通じて、華嚴五敎章の本文に科文を安列して、以て學佛の徒の研鑽に便ならしめたものがそれで、古來科一卷として別行せしことは、正德二年の高山寺聖敎目錄に「五敎章科二本・一本闕」と云ふに徵して知り得る。大日本續藏經第一輯第二編第八套第二冊に收むるものがそれで、撰號を安じて「玉峰沙門師會述」と云ふ。華嚴宗經論章疏目錄に、希迪の五敎章集成記六卷と同敎一乘策一卷との中間に「同章科文上卷」を揭げて撰者を記さゞるもの、註華嚴同敎一乘策一卷(卍續二・八・五所收)は師會述・希迪註なる上、序中に「希迪不敏學而習ノ之」と云ふ事實と、希迪の評復古記(一名扶焚薪、卍續二・八・三所收)の撰號に「希迪謹錄」と安ずる等、希迪は正しく可堂師會の講に預り、其の徒に非ずやと思はるゝ節無きに非ざるを以て、或は本書を意味するものに非ざる歟と考へらる。撰述の年時は、恐らくは師會六十五歲、卽ち五敎章復古記を製作せる南宋孝宗の乾道二年丙戌(A. D. 1166)前後なるべく、若し復古記の諸敎所詮差別第六斷惑分齊の下第二斷惑得果段以下の如く、師會の遺命に基き、門人善熹が執筆せるが如く、本書亦遺命に依る善熹の編に係るとせば、その年時は、孝宗の紹熙三年壬子(A. D. 1192)に成れるものと見るべきであらう。寧宗の慶元四年戊午(A. D. 1193)善熹七十二歲、復古記開版と同時に開版されしなるべく、我が國への傳來は、その後建保四年(A. D. 1216)に至る約十數年間に存し、新渡本は高山寺經庫に祕藏せられ、明惠の徒隆辨に依りて筆寫せられた。寬文九年己酉(A. D. 1669)洛西五台山般若寺沙門普入に依りて、五敎章及び復古記と會合して刊行せられ、外に別に傳寫して之れを傳へる。本書所科の底本は、淨源重校本に依るを以て、天平將來の古本たる我が和本に齊しからず、然るに分科多く正鵠を得、凝然の華嚴五敎章通路記等、

此の科に禀くるところ多く、寛永二年乙酉(A. D. 1705)智積院觀應の冠註五教章十卷を編するや、科を分つは多く通路記に依り、通路の既に佚失に歸せるの分は、卽ち本書に依りて之れを補苴し、以て本文に頭書せり。一蓮院秀存の五教章を講ずるや、全篇を通じて多少修正を試みたるもの無きに非るも、大體に於ては尙ほ本書に依る。その廣く依用せられたる以て知られ得る。

❾寫本(京大、藏・一〇ケ・一) (今津洪嶽)

華嚴一乘教義分齊章集成記

❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kyō-gi-bun-zai-shō-jū-jō-ki. (支)Hua-yen-i-ch'êng-chi-ao-i-fên-chi-chang-chi-ch'êng-chi. 五教章集成記 ❷六卷〔現在第一卷〕 ❸存、卍續一・九五・五 ❹宋希迪(—隆興頃? A. D. 1163—1164—)撰 ❻五教章集成記の下を見よ ❾第一卷寫本(京大、藏・九ケ・八)

華嚴一乘教義分齊章折薪

❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kyō-gi-bun-zai-shō-ses-shin. (支)Hua-yen-i-ch'êng-chiao-i-fên-chi-chang-chê-hsin. 華嚴五教章折薪、折薪 ❷五卷 ❸存 ❹宋代觀復撰 ❼〔參考〕 大正新脩大藏經刊行豫定書目

華嚴一乘教義分齊章復古記

❶(日)Ke-gon-ichi-jō-kyō-gi-bun-zai-shō-fuk-ko-ki. (支) Hua-yen-i-ch'êng-chiao-i-fên-chi-chang-fu-ku-chi. 華嚴五教章復古記 ❷六卷或三卷 ❸存、卍續二・八・三、佛教大系第一三—一四 ❹宋師會(—乾道元A. D. 1165—)述、善熹(—乾道頃A. D. 1165—1173—)註 ❻華嚴五教章復古記の下を見よ ❾寫文九刊 ❾(京大、藏・一〇ケ・二)(正大、一二三・一二—一三)(龍大、二六三一・五九—六〇、研佛)

華嚴一乘教義分齊章焚薪

❶(日)Ke-gon-ichi-jō-kyō-gi-bun-zai-shō-bon-shin. (支)Hua-yen-i-ch'êng-chiao-i-fên-chi-chang-fan-hsin. 華嚴五教章焚薪 ❷二卷 ❸存、卍續二・八・二 ❹宋師會(—乾道元 A. D. 1165—)述 ❻華嚴五教章焚薪の下を見よ ❾寫本(京大、藏・二四ク・一五)大正三寫(谷大、餘大・二五五八)

華嚴一乘教分記

❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kyō-bun-ki. (支)Hua-yen-i-ch'êng-chiao-fên-chi. 華嚴五教章、華嚴一乘教義分齊章、華嚴經中一乘五教分齊義、五教章、一乘教分記、華嚴一乘教分別記、華嚴經分記 ❷四卷或三卷 ❸存、大正四五・四七七No. 1866、縮陽二、卍三四・一〇、明北1584跡、明南1576丹、佛教大系第一三Nj. 1591 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元 A. D. 643—712)述 ❻華嚴五教章の下を見よ ❾鎌倉時代寫(寶菩提院)(寶龜院)正應三寫(谷大、餘甲・六二)慶長一八刊(谷大、長保・九九)慶安四刊(高大、寄・一・一六)寛永四刊(谷大、餘大・二一五九)(龍大、二六三一)一六)寶曆七刊(龍大、研佛)弘化四寫(谷大、餘大・四二七六)

華嚴一乘教分記聞書

❶(日)Ke-gon-ichi-jō-kyō-bun-ki-kiki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❾(京專)

華嚴一乘教分記輔宗匡眞鈔

❶(日) Ke-gon-ichi-jō-kyō-bun-ki-fu-shū-kyō-shin-shō. 華嚴五教章匡眞鈔、匡眞鈔 ❷十卷 ❸存、大正七三・三〇一No. 2344 ❹鳳潭(承應三—元文三 A. D. 1654—1738)述 ❻華嚴五教章匡眞鈔の下を見よ ❾享保一六刊 ❾(正大、一二三・六七、一二三・三二、一二三・三〇、一二三・六一)(龍大、二六三一・三〇)(谷大、餘大・一六〇)(京大、一・二四ケ・七)(京專)

華嚴一乘教分別記

❶(日)Ke-gon-ichi-jō-kyō-fun-bek-ki. (支) Hua-yen-i-ch'êng-chiao-fên-pieh-chi. 華嚴五教章、華嚴一乘教義分齊章、華嚴經中一乘五教分齊義、五教章、華嚴一乘教分別記、一乘經分記、華嚴經分記 ❷三卷或四卷 ❸存、大正四五・四七七No. 1865、縮陽二、卍三四・一〇、明北1584跡、明南1576丹、佛教大系第一三、Nj. 1591 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元A. D. 643—712)述 ❻華嚴五教章の下を見よ ❾寶曆七刊 ❾(正大、一二三・一)

華嚴一乘十玄門

❶(日) Ke-gon-ichi-jō-jū-gem-mon. (支)Hua-yen-i-ch'êng-shih-hsüan-mên. 華嚴十玄章 ❷一卷 ❸存、大正四五・五一四No. 1868. 卍續二・七・五 ❹隋杜順(陳永定元—貞觀一四 A. D. 557—640)說、唐智儼(隋仁壽二—總章元 A. D. 602—668)撰

❻圓超錄には本書を華嚴十玄章と云ひ、永超錄には華嚴經十玄章と稱してゐる。

本書の表詮せんとせる內容を一言以つて之を云はゞ華嚴に於ける重々無盡法界緣起の本質を開顯せんとしてゐると云つてよい。而して此の法界緣起を表詮せんとする方法に就いて著者は二の大段を分つて之を論じてゐる。卽ち第一には譬喩を擧げてその意味を辨成し、第二にはその意味を理論的に構成してゐるのである。今本書の題目になつてゐる十玄門と云ふのは、法界緣起の意味を理論的に構成したその構成の方法であり理論である。十玄門とは一同時具足相應門、二因陀羅網境界門、三祕密隱顯俱成門、四微細相容安立門、五十世隔法異成門、六諸藏純雜具德門、七一多相容不同門、八諸法相卽自在門、九唯心廻轉善成門、十託事顯法生解門の十門の謂である。而かも右十門の一門一門に各々、敎義、理事、解行、因果、人法、分齊境位、法智師弟、主伴依正、逆順體用、隨生根欲性の十義を具して百門を成じ、以つて法界緣起の重々無盡なることを理論的に構成せしめてゐる。十玄緣起は華嚴敎學の最高潮に達した美華であつて歷代の祖師の各々精髓を傾けて研究したところのものであり、智儼の華嚴經搜玄記を始め、賢首の五敎章、華嚴經探玄記、文義綱目等並に以後の諸師の著述に見らるゝが、その中搜玄記のみはその次第全く本書と合致するも賢首以下の諸師の十玄は或は列次に於いて或は名目に於いて改變を致し少差を來してゐる。

次に本書は撰號に大唐終南太一山至相寺釋智儼撰承杜順和尙說となつてゐるが、此の十玄思想は杜順の創見か智儼の發揮かと云ふ問題、並に十玄思想の原由は何處にあるだらうかに就いて考察する必要がある。第一の問題に關し古來の學者に兩樣の態度

がある。即ちその一は十玄を以つて杜順の創説となすもの、その二は智儼の發揮となすものである。前者を主張するのは圭峯であつて彼の著圓覺經大疏には杜順十玄の法門を文殊に受くと云つてゐる。後者の主張に就いては世の學者は清涼の法界玄鏡の中、清涼が法界觀門の中の周遍含容觀を釋し終り、最後に「是故十玄亦自レ此出」と述べたのを根據にして、十玄の思想は杜順の周遍含容觀を一段進めて智儼が發揮したものである、だからその意味に於いて本書が智儼撰なるにも拘らず尙「承杜順和尙說」と云つてゐるのだとし、學者多く此の說に從つてゐる。即ち普寂の發揮鈔にも雲華(智儼のこと)の十玄門は遠く則ち帝心(杜順のこと)の法界觀門に依ると稱してゐるのである。然し自分はそう簡單に一般の後說に從ふわけにゆかない。何とならば清涼の言葉は十玄の思想はその源を法界觀門中の周遍含容觀に發してゐると云つてゐるのみで、法界觀門は杜順のもの十玄は智儼のものだとは云つてゐない。即ち杜順に思想の進展發達があり、法界觀門から更に十玄門へ進展したと見ても何等支障を來さない。從つて清涼の言葉を以つて直ちに普寂等の如く解し、十玄を智儼に屬せしむることは不可である。殊に他の方面より考察するに同別二敎判に關して智儼は孔目章の中に前德巳に通別の二敎を述せるも而かも未だ相を釋するを見ず、今理を以つて之を求通するに同と義に於いて別趣なきなりと述べて、同別二敎判の原由を前德の通別二敎に求めてゐる。然るに前德の通別二敎とは即ち十玄門に「敎即是通相別相」と述べてゐるところのものに最もよく當欽るのである。既に智儼自らが十玄門の義を前德として述べてゐることになると、十玄門の思想をそのまゝ直に智儼の發揮にかゝると云ふ斷定には相當危險があるものと思はねばならぬ。兎に角今は上の如き兩樣の說があること並に一般に採用されてゐる說に上の如き危險があることのみを述べて自分の決斷は後時の研究に讓る。次に十玄思想の原由であるが、それは既に清涼が述べた如く法界觀門中の周遍含容觀から發展したものと思ふ。現今一般に流布してゐる刊本は五敎止觀と合本にして元祿九年八月智積院の覺眼に依つて刊行せられたものである。

❾刊本(京大、藏・一〇ケ・一二)光緒二二刊(京大、藏・一〇ケ・四)元祿九刊(正大、一二四・一、一二四・三)(谷大、餘大・一七二)(龍大、二六三一・一)

(結城令聞)

華嚴一乘十信位中開廓心境佛佛道同佛光觀法門 ❶(日)Ke-gon-ichi-jō-jis-shin-i-chū-kai-kwaku-shin-kyō-butsu-butsu-dō-dō-buk-kō-kwan-hō-mon. 佛光觀略次第 ❷一卷 ❸存、日本大藏經華嚴宗章疏卷下、大日本佛敎全書第一三華嚴小部集 ❹高辨(承安三—貞永元)述 ❺承久二(A. D. 1220)七月二十五日 ❻本書の尾題には佛光觀略次第とある。即ち十信位に於ける佛光觀の作法を簡潔に示したるものにして、初めに入堂坐禪等の作法を說き、次いで禮佛、表白を擧げて佛光觀を說き觀行の必要を示し、終に出觀の作法をも述べてある。尙本書の奧書に依れば廣略の二本があるやうに傳へられてゐる。

❼(參考)諸宗章疏錄第二

(衞藤卽應)

華嚴一乘成佛妙義 ❶(日)Ke-gon-ichi-jō-jō-butsu-myō-gi.(支)Hua-yen-i-ch'êng-ch'êng-fu-miao-i. ❷一卷 ❸存、大正四五・七七五 No. 1890、卍續二・八・四 ❹新羅代、見登之集 ❻本書は一、出成佛種門。二、辨定得人門。三、顯敎差別門。四、疾得成佛種類門。五、問答分別門の五段に分つて華嚴一乘の立場より成佛の義を解說せるものである。

(衞藤卽應)

華嚴一乘分齊章義苑疏 ❶(日)Ke-gon-ichi-jō-bun-zai-shō-gi-on-sho.(支)Hua-yen-i-ch'êng-fên-chi-chang-i-yüan-shu. 華嚴一乘敎義分齊章義苑疏、華嚴五敎章義苑疏、五敎章義苑疏、華嚴義苑疏、五敎章道亭疏、義苑疏 ❷十卷 ❸卍續二・八・二 ❹宋道亭(仁宗・神宗・哲宗代 A. D. 1023—1100?)撰 ❻宋朝華嚴敎家四大家の一人なる霅溪普靜寺道亭が、賢首の華嚴一乘敎分記卽ち華嚴五敎章三卷を、隨文作釋したもので、支那に於ける五敎章末釋の濫觴を爲すものである。自序に「我が大師賢首、神光を榮國に孕み、智鏡を香山に攬り、群詮を博綜し、了義を恢張す。五敎を權衡して權實是に星分れ、十宗を木鐸して競執皆矩方に從ふ(中略)遂に靈篇三軸妙義十章を著す、清涼廣く雜華を開き、定慧潛に了義に通ずと雖も、其義釋を考ふるに古今未だ聞かず、道亭、學大識を慚ぢ、智雄才を恥づ、輙ち操觚を事として、用ひて解釋を伸ぶ、冀くは無極に流通して先祖の深衷を見んことを」と云へる以て知るべきである。道亭の師承並に紀傳を詳かにしない。僅に撰號を安じて「霅溪普靜沙門道亭述」と云ふと、宋哲宗の元祐五年五月(A. D. 1090)、無爲子楊傑の作に係る前敍・後序を用するに依りて、長水子璿の後を承け、其の徒晉水淨源と、同代の出たることを推定するに留まるのみである。子璿は仁宗の天聖八年(A. D. 1033)示寂、淨源は哲宗の元祐三年(A. D. 1088)を以て示寂した。即ち元祐五年は淨源の示寂に後るゝこと僅かに兩三年に過ぎざる上に、前敍に「是の書三卷世に行はるるもの累年、旨歸を演暢し、必ず奧學を資く」と見えるから、即ち道亭は子璿の晚年、淨源の生涯と略ぼ同時代と推し得るを以てである。當代の佛敎は、唐末戰亂の間を經て、久しく振はざるものありし上に、重ねて五代末周世の厄に遭遇して、殆んど頹廢其の極に達し、大藏は元より、先德の高著、その何れも總じて散逸に歸して、殘缺全からず、漸く吳越王錢俶、使を高麗及び我が國に遣して聖敎を求むるあり。高麗の諦觀・義天、我が國の慶政等、各々自國傳來の經論章疏を齎すに依りて、次第に三藏聖敎を復興するを得るに至つた。本書所釋の華嚴五敎章は淨源の重校本に依る。淨源の敎義分齊章重校序は、義天の圓宗文類第二

此为试读，需要完整PDF请访问： www.ertongbook.com

十二に見えるが、其の年時を詳にしない。序中「雷川上人靈鳳なる者あり、久しく祖訓を奉ず、緡を施して開勒す」と云へる靈鳳は、或ひは道亨の別號に非るやと推し得るも、確證を得ざるを憾とする。何れにしても淨源と同代の出たることは疑ひ無きことである。先にも解明せるが如く、本書は聖教稀覯の時に出ずるが故に、華嚴教學としては、二祖智儼の華嚴經搜玄記及び三祖賢首の華嚴經探玄記等を見ず、主として四祖澄觀、五祖宗密の教學變遷期に屬する諸祖に依るが故に、釋義往々にして賢首の教義と左右するものあるを免れず、檢討者の注意を要するところである。本書の印行は、哲宗の元祐五年五月開版を以て初刻とする。初後に朝散郎尚書主客員外郎輕車都尉賜紫金魚袋無爲子楊傑の前敍及び後序を附する。南宋寧宗の嘉定二年(A. D. 1209)烏鎭普靜寺僧淨覺重刊、「朝請郎差充淮南路安撫司主管機宜文學差浙西買軍需錢、仲席、捨二錢壹佰貫文、刊二華嚴義苑疏第十卷一、功德上二薦先考參政大賚太師文惠溫國公先妣秦國太夫人季氏一、伴二薦亡室安人陳氏、亡次男通仕郎錢、紹修一、超二昇天界」この識語を有す。我が國にては永祿十二年己卯年(A. D. 1699)十一月、洛陽書林・伊澤三郎兵衛・土川氏宇平・井上忠兵衛藏板として開版、文化十癸酉年(A. D. 1813)その重刊を見る。我が國への傳來は、鎌倉期にあり、恐くは高山寺系の學侶に依りて將來されしものであらう。凝然の華嚴五敎章通路記、湛睿の五敎章纂釋を初め、幾多の華嚴學徒に依りて依用せられる。

⑨元祿一二刊(正大、一二三・九)(龍大、二六三一・二八)(京專)文化一〇刊(谷大、長保・一一一)　(今津洪嶽)

華嚴一乘法界圖　❶(日) Ke-gon-ichi-jō-hok-kai-zu. (支)Hua-yen-i-ch'êng-fa-chieh-t'u. 一乘法界圖章、一乘法界圖、華嚴一乘法界圖章、華嚴法界圖章、法界圖章　❷一卷　❸存、大正四五・七一一No. 1887 A、卍續二・八・四　❹義湘(武德八—長安二 A. D. 625—702)撰　❺新羅總章元(A. D. 668)七月十五日　❼〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄1829　⑨寫本(京大、藏・一〇ケ・五)正德二寫(谷大、餘大・三七三四)

華嚴一乘法界圖章　❶(日)Ke-gon-ichi-jō-hok-kai-zu-shō. (支)Hua-yen-i-ch'êng-fa-chieh-t'u-chang. 一乘法界圖章、一乘法界圖、華嚴法界圖章、法界圖章　❷一卷　❸存、大正四五・七一一No. 1887 A、卍續二・八・四　❹義湘(武德八—長安二 A. D. 625—702)撰　❺新羅總章元(A. D. 668)七月十五日　❼〔參考〕諸宗章疏錄第一　❺久安四寫　⑨(寶龜院)

華嚴於圓極談性惡歟又華嚴開覺佛性通情非情歟之事　❶(日) Ke-gon-en-goku-ni-oite-shō-aku-o-dan-zuru-ka-mata-wa-ke-gon-bus-shō-o-kai-kaku-shi-jō-hi-jō-ni-tsū-zuru-ka-no-koto.　❸存　⑨寫本(龍大、研佛)

華嚴圓宗閉座僻解　❶(日)Ke-gon-en-shū-kan-za-byaku-ge.　❷一帖　❸存　❺足利時代寫　⑨(寶龜院)

華嚴圓宗鳳髓　❶(日) Ke-gon-en-shū-hō-zui. 圓宗鳳髓　❷二卷或三卷　❸存　❹鳳潭(承應三—元文三 A. D. 1654—1738)撰　❻圓宗鳳髓の下を見よ　❺正德三刊　⑨(谷大、餘大・四三七)(龍大、二六三二・一、研佛)

華嚴演義鈔纂釋　❶(日) Ke-gon-en-gi-shō-zan-shaku. 華嚴經玄談纂釋　❷三十八卷　❸存、大正五七・四九No. 2205　❹湛睿撰　❺正和二—元亨四(A. D. 1313—1324)　❻華嚴宗第四祖澄觀の著華嚴經演義鈔、即ち華嚴經疏玄談を解釋せるもの。その諸所に見ゆる奥書に依るに、湛睿が泉州久米田寺に筆を起し、後武州金澤稱名寺に於て脫稿す、而して脫稿後と雖も其後十年餘はこれに加筆せしことが察せられる。

華嚴經演義鈔に就ての釋であるから、經の本文には亘つて居ないが、所謂玄談として指示されたる華嚴教義の解說に就き、諸種の疏釋を援引し、著者の博學なる才氣が隨處にあらはれて居る。同一著者の述作にかゝる五敎章纂釋は古來よく須ひられて居るが、本書は久しく隱沒して居た。　(湯次了榮)

華嚴演義鈔目錄　❶(日) Ke-gon-en-gi-shō-moku-roku.　❷二卷　❸存　⑨寫本(哲、ヨ・三・右・一)

華嚴演義鈔略目錄　❶(日)Ke-gon-en-gi-shō-ryaku-moku-roku.　❷一卷　❸存　⑨寫本(哲、左・四・中・二一)

華嚴緣起　❶(日) Ke-gon-en-gi. (支)Hua-yen-yüan-chi. 華嚴祖師繪傳　❷六卷(既刊四卷)　❸存　⑨大正一一刊(谷大、別・四〇)一軸寫本(帝國、ん・一三)

華嚴緣起性起二門綱要　❶(日) Ke-gon-en-gi-shō-ki-ni-mon-kō-yō.　❷一卷　❸存　❹覺圓元諦編　⑨寫本(京大、日大未・二一八)

華嚴和尚講前廻向發願文　❶(日) Ke-gon-o-shō-kō-zen-e-kō-hotsu-gwan-mon.　❷一卷　❸存、三十帖策子第二六

華嚴奥旨妄盡還源觀　❶(日)Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan. (支)Hua-yen-ao-chih-wang-chin-hai-yüan-kuan. 修華嚴奥旨妄盡還源觀、妄盡還源觀、華嚴還源觀　❷一卷　❸存、大正四五・六三七No. 1876、縮陽一二、卍三四・一〇、明北1586跡、明南1581青、Nj. 1593　❹唐法藏(貞觀一七—先天元 A. D. 643—712)述　❻修華嚴奥旨妄盡還源觀の下を見よ。　❺慶安三刊　⑨(龍大、二六三一・七七—七

八、研佛)(谷大、餘大・一三六三)

華嚴奥旨妄盡還源觀癸亥錄 ❶(日) Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-ki-gai-roku. 妄盡還源觀癸亥錄 ❷三卷或二卷 ❸存 ❹芳英(寶暦一三—文政一一 A. D. 1763—1828)述 ❾寫本(龍大、二六三一・七九—八〇)(谷大、餘大・二九六八)

華嚴奥旨妄盡還源觀玄談 ❶(日) Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-gen-dan. ❷一卷 ❸存 ❹宜然述 ❾寫本(龍大、二〇三・四七)

華嚴奥旨妄盡還源觀甲子錄 ❶(日)ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-kō-shi-roku. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、二六三一・八二)

華嚴奥旨妄盡還源觀講義 ❶(日) Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-kō-gi. 妄盡還源觀講義 ❷一卷 ❸存、照遍和尚全集第二 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A. D. 1828—1907)著 ❺明治三四刊 ❾(龍大、二六三一・八一)(谷大、餘洋・八七)

華嚴奥旨妄盡還源觀講前目錄 ❶(日) Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-kō-zen-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❺嘉永二寫 ❾(龍大、二六三一・八三)

華嚴奥旨妄盡還源觀精義 ❶(日) Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-sei-gi. ❷一卷 ❸存、照遍和尚全集第二 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A. D. 1828—1907)著 ❺明治三四刊 ❾(龍大、二六三一・八一)(谷大、餘洋・八七)

華嚴奥旨妄盡還源觀聽記 ❶(日) Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-chō-ki. ❷二卷或一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、二六三一・八四—八五)

華嚴奥旨妄盡還源觀丙辰錄 ❶(日) Ke-gon-ō-shi-mō-jin-gen-gen-kwan-hei-shin-roku. ❷一卷 ❸存 ❹持淨(—安政三 A. D. 1856—)述 ❺安政三寫 ❾(龍大、二六三一・八七)

華嚴海會佛菩薩 ❶(日) Ke-gon-kai-e-butsu-bo-satsu. ❷一葉 ❸存 ❾(龍大、別置)

華嚴學綱要 ❶(日) Ke-gon-gaku-kō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹齋藤唯信著 ❺大正九刊 ❿東京丙午出版社

華嚴學栞 ❶(日) Ke-gon-gaku-shi-ori. ❷一卷 ❸存、佛教通俗講義之内 ❹藤谷遐由著 ❺明治三〇刊 ❾(龍大、二六三二・六)(正大、一二二・九)(谷大、餘洋・五三)(帝國、六二・二七四)(高大、寄・一・一六) ❿東京光融館

華嚴學上より見たる釋迦文佛 ❶(日) Ke-gon-gaku-jō-yo-ri-mi-ta-ru-sha-ka-mom-butsu. ❷一卷 ❸存 ❹龜谷聖馨著 ❺明治四三刊 ❾(龍大、二六三九・五〇、研佛)(谷大、餘洋・二八六)

華嚴刊定記 ❶(日) Ke-gon-kan-jō-ki. (支) Hua-yen-kan-ting-chi. 續華嚴經略疏刊定記、華嚴經略疏刊定記 ❷十五卷或十六卷 ❸存、卍續一・五・一—三 ❹唐慧苑(—嗣聖頃 A. D. 684—704—)述 ❻續華嚴經略疏刊定記の下を見よ ❼〔參考〕諸宗章疏錄第一、東域傳燈目錄卷上 ❾寫本(龍大、二四一四・五三)

華嚴感應緣起傳 ❶(日) Ke-gon-kann-ō-en-gi-den. (支) Hua-yen-kan-ying-yüan-chi'i-ch'uan. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・七・三 ❹清代弘璧撰 ❻本書は左の十門に分つて華嚴經の成立、流傳並びに感應の事跡を華嚴疏演義鈔及び華嚴傳記の類より抄出編輯したものである。十門は

(一)九會說經。(二)圓山結集。(三)天龍護藏。(四)龍樹誦出。(五)流傳西域。(六)法領請歸。(七)覺賢初譯。(八)寡學重翻。(九)正彰感應。(一〇)續集感通。

であつて、(一)—(四)は印度に於ける華嚴經成立流傳を述べ、(五)—(八)は經の西域を經て支那に請來譯出さるゝに至りし經過を記す。(九)(一〇)は主として支那に於ける華嚴經信仰者の靈驗感應の跡を述べ華嚴經の功德を讃仰せるものである。華嚴經成立流傳史實の究明には左程參考にするに足るものではないが、支那に於ける華嚴經の實際信仰の跡を研究する者には參考すべき一資料である。

尙近頃の支那では磚橋法藏寺から華嚴處會品目圖と合して一册となした刊本が出てゐる。

❺光緒一五刊 ❾(京大、藏・一九ケ・一) ❿江北刻經處

(塚本善隆)

華嚴感應傳 ❶(日)Ke-gon-kann-ō-den. (支)Hua-yen-kan-ying-ch'uan. 大方廣佛華嚴經感應傳、華嚴經感應傳 ❷一卷 ❸存、大正五一・一七三No. 2074、卍續二乙・七・三 ❹唐惠英(—垂拱三 A. D. 687—)撰、胡幽貞纂 ❻大方廣佛華嚴經感應傳の下を見よ ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二 ❺明暦元刊 ❾(京專)(正大、一一三三・三、一一三三・六五)(谷大、餘大・三二二一)

華嚴起信觀行法門 ❶(日)Ke-gon-ki-shin-kwan-gyō-hō-mon. ❷一卷 ❸缺 ❹壽祥述 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二

華嚴義疏 ❶(日) Ke-gon-gi-sho. (支)Hua-yen-i-shu. ❸缺 ❹隋代惠藏撰 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第一

華嚴義抄 ❶(日) Ke-gon-gi-shō. (支)Hua-yen-i-ch'ao. ❷一卷 ❹後魏靈辨述 ❻大日本續藏經(一・三・三)所載の華嚴經論と同一か。 ❼〔參考〕東域傳燈目錄卷上

華嚴教學 ❶(日)Ke-gon-kyō-gaku. 大乘佛教大系華嚴教學 ❷一卷 ❸存 ❹佐々木月樵(明治八—昭和元 A. D. 1875—1926)著 ❺大正八刊 ❿京都丁字屋

華嚴教寺志 ❶(日)Ke-gon-kyō-ji-shi. (支)Hua-yen-chiao-ssŭ-chih. 玉岑山慧因高麗華嚴教寺志 ❷十二卷 ❸存、武林掌故叢編第二之内 ❹李蒼撰 ❾刊本(谷大、外大・一五六九)

華嚴教主 ❶(日) Ke-gon-kyō-shu. ❷一卷 ❸存、私淑篇第四 ❹輝潭(—文化元 A. D. 1804—)撰 ❾寫本(谷大、餘大・一九四七)

華嚴教主異論條目 ❶(日)Ke-gon-kyō-shu-i-ron-jō-moku. ❷一卷 ❸存、教主佛考第四之內 ❹刊本(谷大、餘大・五一〇)

華嚴教主私記 ❶(日) Ke-gon-kyō-shu-shi-ki. ❷一卷 ❸存、教主佛考第四之內 ❹刊本(谷大、餘大・五一〇)

華嚴教分記 ❶(日) Ke-gon-kyō-bun-ki. (支)Hua-yen-chiao-fên-chi. ❷一卷 ❸缺 ❹唐杜順(永定元—貞觀一四A. D. 557—640)述 ❼(參考)諸宗章疏錄第一

華嚴教分記 ❶(日) Ke-gon-kyō-bun-ki. (支)Hua-yen-chiao-fên-chi. 華嚴五教章、華嚴一乘教義分齊章、華嚴經中一乘五教分齊義、五教章、華嚴一乘教分記、一乘教分記、華嚴一乘經分別記 ❷三卷或四卷 ❸存、大正四五・四七七No. 1866、縮陽二、卍三四・一〇、明北1584跡、明南1576丹、佛教大系第一三、Nj. 1591 ❹唐法藏(貞觀一七—先天元 A. D. 643—712)述 ❻華嚴五教章の下を見よ ❼(參考) 諸宗章疏錄第一

華嚴鏡燈章 ❶(日) Ke-gon-kyō-tō-shō. (支)Hua-yen-ching-têng-chang. ❷一卷 ❸存、卍續二・九・一 ❹清代續法集、如朗校 ❻康熙年中(A. D. 1662—)〜 ❻賢首大師法藏が事々無礙法界の旨を示さんが爲に鏡と燈とが重々無盡に相照すといふ喩に就いて賢首宗の百門を設けて華嚴の教理を簡單に解說した短篇である。百門の內容は初に時を辨じ十三門を開いて通別の三時を說き、次に儀を叙して本末門起末門等の十門を擧げ、次いで五教、六宗を示し、十法界の觀門及び教義對、理事對等の十對を擧げ、更に眞空觀、理事無碍觀、周遍含容觀、主伴圓融について各十門を設けて解說し、最後に總相別相等の六相圓融を說いてゐる。 ❹刊本(京大、藏・一〇二・二) (衛藤卽應)

華嚴行願品疏鈔 ❶(日) Ke-gon-gyō-gwam-bon-sho-shō. (支) Hua-yen-hsing-yüan-p'in-shu-ch'ao. 大方廣佛華嚴經普賢行願品別行疏鈔 ❷六卷 ❸存、卍續一・七・五 ❹唐宗密(建中元—會昌元 A. D. 780—841)述 ❻華嚴經行願品疏鈔の下を見よ ❼寫文一三刊 ❹(高大、寄・一・一六)(谷大、餘大・七五〇)(龍大、二四一四・四六)

華嚴行願品疏鈔並科註 ❶(日) Ke-gon-gyō-gwam-bon-sho-shō-narabi-ni-kwa-chū. (支) Hua-yen-hsing-yüan-p'in-shu-ch'ao & k'o-chu. ❷七卷 ❸存 ❹唐宗密(建中元—會昌元 A. D. 780—841)述 ❹(京專)

華嚴經 ❶(日)Ke-gon-gyō. (支)Hua-yen-ching. 大方廣佛華嚴經、六十華嚴、舊譯華嚴經、舊經、晉經 ❷六十卷 ❸存、大正九・三九五No. 278、縮天七—九、卍七・三—五、北81坐至垂、南81坐至垂、元78坐至垂、明北83湯至垂、麗80湯至道、明南78湯至垂、Nj. 87 ❹佛馱跋陀羅(升平三—元嘉六A. D. 359—429)譯 ❻東晉義熙一四—元熙二或永初二(A. D. 418—420 或421) ❻此六十華嚴が支那に傳來し翻譯するに至りたことを一言すれば、東晉の中頃、廬山の慧遠法師の弟子に支法領なるものがあり、夙に佛門に歸し、大法の弘通を以て己が任とせしも、當時未だ支那に大乘經典の流傳するもの甚だ稀である。爰に於て彼は、奮然身を挺して渡天の途に上り、遂に于闐國の東南遮狗槃國に到り、彼國に護持せる華嚴の梵本を東土に傳へんことを彼國王に懇請す。彼王は其至誠なるに感じて、終に之を許す。又此れと同時に支那の沙門智嚴なるもの罽賓國に留學し、佛大仙に就て修學すること年あり。或時嚴同朋に語て曰く、誰れか能く我れと共に支那に之て大法を宣傳するものなきやと。衆乃ち薦むるに佛馱跋陀羅を以てす。佛大仙も亦大に之を然りとして、可ㄗ以振ニ維僧徒一宣中授禪法上者佛馱跋其人也と贊した。是に於て先の支法領と共に、三人手を携へて罽賓を辭し、糧を裹て東に向ふ。其間山川を跋涉し路六國を經由して具に辛酸を嘗め、中途海に浮び、幾んど三箇年を費して漸く青州東萊郡に達す。時に會〻羅什三藏長安に在りと聞き、佛馱跋陀羅大に欣んで直に長安に向ふ。實に是れ姚秦の弘始十年(日本反正天皇三年)四月であつた。其後十一年を經て、東晉安帝義熙十四年戊午(日本允恭天皇七年)三月十日に至りて、吳郡內史孟顗右衛將軍褚叔度の請に因りて、楊州の謝司空寺(道場寺)に於て華嚴經の翻譯を始む。時に沙門法業・慧嚴・慧觀等の一百有餘人、其業を扶け、潤文證義の任に當り、文義を考查し、方言を會通して能く經意を得る。前後三年を經て、元熙二年六月十日に至りて譯訖り、梵本十萬頌の中前分三萬六千偈を譯出し、五十卷を成ず。後校訂を重ねて、終に六十卷となる。卽六十華嚴と稱するもの是れである。(歷代三寶紀第七華嚴傳第一參照)世に之を略稱して舊經又は晉經と云ふ(東晉の朝に譯すればなり)。偖て此經の內容は、一部三十四品にして、七處八會の說なり。而して此經は佛自所證の本分を披瀝し、法身の大士たる普賢文殊を上首として、普く海會の大衆に向て包まず隱さず宣說したる經典なれば高尙甚深にして、苟も其機に非れば、之れを聽けども如聾如盲にして一辭を讚する事能はず、故に舍利弗目連等の六千の比丘は、入法界品に列すれども空しく聾盲を學んで啞然たり。是れ全く二乘の劣機は此經の甚深を窺知する事を得ざる實例なりと知るべし。さて七處とは人三天四と稱して人の三處と天上の四處である。人界の三處とは卽ち第一會が菩提樹下、寂滅道場である。其の說時は成道第二七日で、佛凡ての說法の始めが此の經にして、而も菩提樹下に在りて說くのが自所證の有の儘なることを表示するものであるから、是れが他經と異なる此の經の特に勝るゝ所以である。此處で序品の世間淨眼品と盧舍那品の正宗初を說く。第二會は普光法堂會、卽ち菩提樹下の東南三里許り熙連河の曲の內に在り、此處に於て名號品巳下の六品を說く。第三會は天上界六欲天中の第二忉利天帝釋宮に於て、十住の法を說く。此の中昇

須彌頂品已下六品あり。第四會は夜摩天會、此中四品ありて、即ち十行の法を說く。第五會を兜率天會と云ふ。即ち十廻向を說く。此に三品あり。第六會は他化自在天の說、こゝにて名高き十地の法を說く。十地品は即ち此會である。此中十一品あり。新譯八十華嚴は十地の一品一會となり、餘品は別會となりて、先きの普光法堂會の重說となりてあれども、舊經は第六會中十一品合して一會となりてあるから、新舊兩經七處八會、七處九會の別をなす。第七會は離世間品の一品一會である。此れは人界先の普光法堂に於ての說である。これ第二會と同所にして、重ねて此所で離世間品を說く。新譯では普光法堂が三返目の說となれど、舊經では即ち二度目の場所である。又第八會は逝多林會と名づけ、即ち祇園精舍に於て入法界品を說く、即ち證入法界を以て華嚴の極致とする故に、一經鼓に終りを告ぐ。此の如く本經は場所に就けば人の三處、即ち寂滅道場菩提樹下を始とし、普光法堂と逝多林即ち祇園精舍、天上の四處は即ち忉利、夜摩、兜率、他化自在の四天で說法す。會座は普光法堂が第二會と第七會と重なる故八會となる。新經の方は十定品の一品が十地品の次に加り在りて、又普光法堂の說となりてあるから七處九會となる、其の品數は舊經は三十四品、新經三十九品あり。これは新經は舊經の舍那品が五品に開かれ、其の上に十定品の一を加ふる故三十九となる。今此の舊經三十四品の說を該括して一言に言へば、華嚴經は因果緣起理實法界を說くより外なし。之を經題に就て云へば、具には大方廣佛華嚴經と云ふ、大方廣の三字は所證の眞理を云ふもので、即ち眞理なり實相なり法界なり、共に一體の異名である。佛は此の眞理實相法界を證得する覺者、即ち能證の人なる故、之を果緣起と云ふ。華嚴の二字は喩にして因行華の如く、果德を莊嚴するので、凡て華には開敷生實の功能ありて、華の咲くは實を結ぶ前兆なれば、今菩薩の因行を華に喩へて、佛果上の眞理實相の體驗者となり、妙覺の境に達せんとするには、必ず菩薩因行の華に依りて、果上の佛境界の實を結ぶことを示す故に、華嚴の二字は因緣起の菩薩の行因を云ふ。されば初の大方廣の三字は所證の眞理の橫竪、即ち時間空間に亘りて廣大無邊なるを大の字を以て表示し、又眞理は方正にして邪僻を離るゝ所を方の字を以てし、廣とは廣漠無限にして、眞理は迷悟染淨生佛依正一切に通じて其本體所依となるもの故に此を廣と名く。要するに眞理、實相、法界の體相用に就て、大と方と廣との三字を以て所證の眞理を詮示したるものである。本經一部廣しと雖も、因果緣起理實法界を說くより外なし、佛の果緣起は第一會舍那品に於て依報の果を說き、第二會已下第六會に至るまでは十信十住十行十廻向十地等と菩薩の因行を說く、第七會離世間品第八會入法界品は、要するに前に說きし菩薩の因行を諸種の法に依託して重說し、遂に法界の理に證入するには、諸の善友を求めて實踐實修を要とすることを說くが後の二會である。華嚴宗高祖賢首大師法藏は探玄記二十卷を著し具に此の經を釋す。

❼〔注釋〕 遊意一卷(刊、No. 1731)吉藏。搜玄記(搜玄分齊通智方軌・方軌)十卷(刊、No. 1732)智儼。探玄記二十卷(刊、No. 1733)法藏。文義綱目一卷(刊、No. 1734)法藏。疏六十卷(刊、No. 1735)澄觀。隨疏演義鈔九十卷(刊、No. 1736)澄觀。略策一卷(刊、No. 1737)澄觀。七處九會頌釋章一卷(刊、No. 1738)澄觀。論四十卷(刊、No. 1739)李通玄。大意一卷(刊、No. 1740)李通玄。決疑論四卷(修行次第決疑論、刊、No. 1741)李通玄。骨目二卷(刊、No. 1742)湛然。玄義一卷(刊、No. 1743)靜居。論一卷(刊、卍續No. 823)靈辨。略疏四卷(刊、光明覺品疏一卷見在No. 2756)慧光。疏(文義記)八卷(刊、一卷、卍續No. 750)靈裕。疏口卷(寫、燉煌本)。入法界品十八問答一卷(刊、卍續No. 190)澄觀。綸貫一卷(刊、卍續No. 192)復菴。略疏刊定記十六卷(刊、卍續No. 193)慧苑。合論百二十卷(刊卍續No. 195)李通玄造志寧合。合論簡要四卷(刊、卍續No. 197)李贄。合論纂要三卷(刊、卍續No. 752)方澤。行願品疏十卷(刊、卍續No. 198)澄觀。行願品疏科一卷疏鈔六卷(刊、卍續No. 199. 200)宗密。行願品疏科一卷(刊、卍續No. 755)遵式。疏科文十卷(刊、卍續No. 201)。疏鈔玄談九卷(刊、卍續No. 202)澄觀。疏演義鈔八十卷(刊、卍續No. 203)澄觀。疏註百卷(刊、卍續No. 751)淨源。玄談決擇六卷(刊、卍續No. 204)鮮演。懸談會玄記四十卷(刊、縮No. 1083)普瑞。文義要決問答四卷(刊、卍續No. 207)戒環。乔海集三卷(刊、卍續No. 208)道通。綱要八十卷(刊、卍續No. 209)德清。綱目貫攝一卷(刊、卍續No. 753)永光。三十九品大意一卷(刊、卍續No. 754)永光。疏十卷(刊、光明覺品疏一卷見在No. 2757)元曉。論六百卷、劉謙之。疏七卷、法敏。疏七卷、曇遵。疏七卷、洪遵。疏十卷、光覺。義抄十卷(十二卷)慈恩寺靈辨。疏七卷、智炬。疏五卷、僧範。疏七卷、曇衍。義疏十卷、惠藏。疏(十地品疏)十卷惠覺。旋復章十卷、惠苑。疏十三卷。明難品疏十卷(一卷)曇遷。記一卷、曇遷。疏十三卷、智儼。疏八卷(七卷、四卷)慧遠。疏二十二卷、智正。刊定記纂釋二十一卷、法詵。疏二十卷、宗一。疏三十一卷、法銑。疏三十卷、神秀。科七卷、澄觀。科二十卷大科一卷、善來。演義集玄記六卷、道弼。玄談鈔逢難科一料、思孝。科三卷大科一卷、智昭。綸貫十五卷、宗密。古迹記十卷、大賢。略注百卷、賢昱。科二十卷、淨源。合論音義十卷、恒遂。大不思議論百卷、德素。法界觀一卷、杜順。法界玄鏡一卷、澄觀。玄鏡義記二卷科一卷、德素。注法界觀門一卷、宗密。鈔四卷科一卷、守眞。集要鈔三卷、從朗。集解五卷、有朋。鈔四卷科一卷、洪鑑。助修記二卷科一卷、淨源。符眞鈔四卷、元智。摭要鈔四卷、遵式。釋旋復頌一卷、椎勁。略法界觀手記一卷、有誠。三觀宗記一卷、有誠。新注法界觀、呂氏。疏通教觀十門論一卷、曇雅。法界十大

觀論一卷、曇雅。釋起入法界觀四法明門一卷、曇雅。一相觀門三根判位章一卷、曇雅。普觀諸法相即在入不思議門論一卷、曇雅。心佛道交論一卷、曇雅。十門實相觀一卷、杜順。還源觀一卷(刊、No. 1876)法藏。疏鈔補解一卷科一卷、淨源。義綱一卷、可歸。三昧觀一卷、法藏。普賢觀一卷、法藏。色空觀一卷、法藏。華藏世界海觀、法藏。華藏世界海主伴圓叙一卷、廻濟。法界義海二卷(一卷)法藏。科一卷、淨源。十門看法觀一卷、義想。刊定別章二卷、慧苑。妙理圓成觀三卷、神秀。三聖圓融觀一卷、澄觀。五蘊觀一卷、澄觀。十二因緣觀一卷、澄觀。了義一卷(刊、卍續二・八・四)、澄觀。心要一卷、澄觀。注一卷、通義。自防遺妄集十卷、文超。法界圓一卷、義想。指歸二卷、佛陀三藏。廣釋義章一卷、光緣。要義問答(五十要問答略疏)二卷、智儼。玄明要決一卷、智儼。供養十門儀式一卷、智儼。十玄章一卷、智儼。六相章一卷、智儼。科一卷、淨源。綱目章(八會綱目章、綱目)一卷、法藏。指歸(旨歸)一卷(刊、No. 1871)、法藏。策林一卷(刊、No. 1872)法藏。三寶別行記一卷。法藏。華嚴雜章門一卷(三寶章、流轉章、法界緣起章、圓音章、法身章、十世章、玄義章)法藏。金師子章一卷、法藏。明鏡章二卷、祐田。注一卷、承遷。注一卷、昭昱。雲間類解一卷科一卷(刊、No. 1880)、淨源。一道章一卷、元曉。大乘觀行一卷、元曉。綱目一卷、元曉。九會章一卷、慧苑。會釋二卷、李通玄。略釋一卷、李通玄。十門玄義一卷、李通玄。十二緣生解迷顯智成悲論一卷(刊、No. 1888)、李通玄。眼目論一卷、李通玄。十門玄義一卷。入法界品鈔一卷、智儼。入法界品鈔記一卷、義想。綱要一卷、澄觀。錦冠鈔四卷(二卷)傳奥。經序別行崇福記一卷、紹詵。三品別行疏二卷(問明、淨行、賢首)澄觀。三品隨疏演義鈔五卷科一卷、澄觀。行願品別行疏一卷、澄觀。隨疏義記六卷科一卷、宗密。又隨疏義三卷科一卷、宗密。又義記二卷科一卷、宗密。行願品別行疏二卷、仲希。釋義鈔四卷科一卷、仲希。鈔六卷、從朗。發菩提心戒品一卷、澄觀。淨行品別行疏一卷、從朗。鈔一卷科一卷、從朗。隨好光明品解一卷、王氏。修慈分疏二卷、思孝。略鈔一卷科一卷、思孝。要義問答(錐穴問答)二卷、智通。一乘問答(道身章)二卷、道身。釋名章一卷、義融。開定決疑三十卷、緣起。要決十二卷、緣起。眞流還源樂圖一卷、緣起。海印三昧論一卷(刊、No. 1889)、明皛。要決六卷、梵如。佛名二卷、法藏。梵語一卷、法藏。音義一卷、法藏。傳記五卷、法藏。纂靈記五卷、慧苑。感應傳一卷(刊、No. 2074)、胡幽貞。十地問答。四十二字章法門一卷、處恒。身土說一卷、善聰。賢首宗百門決疑解一卷、善聰。辨三義折賓問一卷、善聰。答頂山十二問一卷、善聰。注十玄門一卷、仲希。身土壽量指要一卷、仲希。答頂山十二問一卷、道璘。發菩提心戒本二卷、御製。隨品讃十卷、御製。隨品讃科一卷、志實。入法界品讃一卷、楊氏。禮文一卷。禮文一卷、法燈。十會讃一卷、道英。九會禮一卷、有誠。禮讃文一卷、永安。禮讃文一卷、處恒。禮讃文一卷、壑仁。圓教修證儀一卷、處恒。入法界品禮讃一卷、善聰。普賢行願懺儀一卷、淨源。問答二卷、法藏。三教對辨懸談一卷、法藏。遊心法界記一卷、法藏。唯識章一卷、法藏。發菩提心章一卷(刊、No. 1878)法藏。關脈義一卷(刊、No. 1879)、法藏。三寶禮一卷、法藏。讃禮一卷、法藏。音義二卷(刊、縮爲一〇)、慧苑。大乘權實義一卷、惠苑。旨歸一卷、法業。旨歸一卷、靈祐。五教分記一卷、杜順。善財童子諸知識一卷、彥琮。普禮法一卷、智顗。齊記一卷、文宣王。文義略纂一卷、顯法師。同心義一卷。十會一卷。品會名圖一卷。請賢聖文一卷。私記二卷、惠融。蓮華藏世界觀及彌勒天宮觀一卷、靈幹。料簡一卷、惠仲。孔目記六卷、珍嵩。序釋一卷、膳良。綱目記二卷。章五卷、慈恩寺靈辨。品釋一卷(刊、日藏)凝然。探玄記洞幽鈔百二十卷(刊、日藏)凝然。探玄記南紀錄五十卷(刊、日藏)芳英。探玄記發揮鈔九卷科一卷(刊、佛全)普寂。行願品簡注三卷(刊、日藏)空性。淨行品科註二卷(刊、日藏)空性。探玄記鈔十五卷、尊玄。探玄記要文抄十卷、宗性。品目一卷、宗性。探玄記問答抄口卷、宗顯。探玄記別機一卷(寫)鳳潭。探玄記會錄十二卷(寫)雲溪。探玄記肝要抄二卷(寫)。探玄記玄談一卷(寫)經歷。探玄記講義一卷(寫)千巖。探玄記隨聞記十一卷(寫)伏明。探玄記珍裘十五卷(寫)深勵。疏玄談纂釋三十八卷(刊、No. 2205)湛叡。隨疏演義鈔略要文二卷、實弘。隨疏演義鈔義解十卷、盛譽。要義一卷(刊)揭謙。離世間品等求鈔一卷、實弘。梵本行願賛和語疏三卷、法護。普賢行願賛諸譯互證二卷(寫)。

❼〔參考〕 出三藏記第二、三寶紀第七、內典錄第三、譯經圖紀第二、開元錄第三、貞元錄第五 ❹應永六刊(谷大、餘甲・四二)刊本(谷大、餘大・一五九四) (河野法雲)

華嚴經

❶(日)Ke-gon-gyō.(支)Hua-yen-ching. 大方廣佛華嚴經、八十華嚴、新譯華嚴經、新經、唐經 ❷八十卷 ❸存、大正一〇・一No. 279、縮天一—四、卍七・六—九、北82拱至臣、南82拱至臣、元79拱至臣、明北84拱至臣、麗81湯至道、明南79拱至臣、Nj. 88 ❹實叉難陀(永徽三—景雲元A. D. 652—710)譯 ❺唐證聖元—聖曆二(A. D. 695—699)

❻此經は唐の則天武后の證聖元年(日本持統天皇九年)晋譯佛馱跋陀羅の翻傳する六十華嚴缺略し、會所未だ完たからざるを以て、使を于闐國に遣して、其梵本を求め、併せて梵學を能くするものを迎へしむ、是に於て實叉難陀(此に覺喜と云ふ)三藏は、華嚴の梵本を將持して支那に來朝す、武后大に喜び詔して大遍空寺に入らしめ、菩提流志等と共に華嚴經を翻譯せしむ。時に恒景、法實、神英、復禮、法藏等の諸法師は、共に譯場に交參し、證義、潤文、筆受の任に當る。凡て五年を經て、聖曆二年(日本文武天皇の三年)十月八日に至り譯し畢る。舊經より多きこと九千頌、梵本十萬頌中より前分四萬偈を譯出す、錄して八十卷を成ず、世之れを八十華嚴又新經唐經とも云ふ。今此を舊經に比較するに、其文辭流暢義理

周備して七處九會あり、是を賢首の華嚴傳第一に左の如く云ふてゐる。今大周于闐ノ所レ進逾二四萬頌一於二第一會一華藏世界舊譯闕略、講解無レ由、今文并具爛然可レ領、其十定一會(第七會)舊經有レ問無レ答、今本照然備具是以前有二七處八會一今七處九會雖下望二百千一(十萬頌のこと)而未上レ備四萬之理亦無レ遺云云。以て八十經の舊經の缺略を補ひ、文義周備して完璧に近きこと知るべし。華嚴第四祖清涼大師澄觀は此經に隨疏演義鈔八十卷を作て之れを釋す、所謂華嚴大疏鈔なるもの是れである。

❼〔參考〕開元錄第九、貞元錄第一三 ❾明曆元刊(谷大、餘大・七四五)(高大、一・一六)萬曆三六刊(內閣)(京大、一・二三ケ・一)

(河野法雲)

華嚴經 ❶(日)Ke-gon-gyō.(支)Hua-yen-ching. 大方廣佛華嚴經、入不思議解脫境界普賢行願品、四十華嚴、貞元經 ❷四十卷 ❸存、大正一〇・六六一No. 293、縮天五、卍七・一〇—八・一、明北85伏至遐、麗1288策至實、明南80伏至羌、Nj. 89 ❹般若譯 ❺唐貞元一一—一四(A. D. 795—798)

❻此の四十華嚴は、具に入不思議解脫境界普賢行願品と云ふ。卽ち唐の德宗貞元十一年(日本桓武天皇延曆十四年)十一月、南天竺烏茶國の師子王、使を遣して梵本の華嚴經を貢進す、其の翌年罽賓國の沙門般若三藏に勅して、長安の崇福寺に於て之れを譯せむ、時に圓照、鑑虛、靈邃、澄觀等の諸法師潤文證義の任に當り、帝親く譯場に臨みて勘正し、又有司に命じて監護せしむ。貞元十四年二月に至り功終り四十卷を成ず。此れは華嚴末後の入法界の一品を別譯したるものにして、一部完全のものに非ず、之れを四十華嚴と稱し、又貞元經と云ふ(佛祖統記第四十一、佛祖通載第十九參照)。清涼大師は疏十卷を作て之れを釋し、又圭峰宗密禪師は普賢行願品疏鈔六卷を著す、現に世に行はる。此の經が晉唐二經の入法界品と異る所は、經の終りに普賢の十大願を說いてあり、而も普賢菩薩が善財に向つて、此十大願王を速に成就滿足せんとすれば、西方極樂世界に往生するに如かずと、彌陀の淨土に往生することを勸奬し、面見彼佛阿彌陀、卽得往生安樂刹の文あり、これ晉唐兩經の入法界品の終りには未だ見ざる所である。依之宋の元照律師すら、一乘の極唱は終歸悉く樂邦を指すと云ふて、淨土敎思想の諸經に瀰滿せることを稱嘆してゐる。

(河野法雲)

華嚴經 ❶(日)Ke-gon-gyō.(支)Hua-yen-ching. ❷十四卷 ❻疑僞經 ❼〔參考〕法經錄第二、仁壽錄第四

華嚴經 ❶(日)Ke-gon-gyō. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第三七阿娑縛抄之內 ❹承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)撰

華嚴經 ❶(日)Ke-gon-gyō. 現代意譯華嚴經 ❷二卷 ❸存、現代意譯佛敎經典叢書第九 ❹原田靈道譯

華嚴經 ❶(日)Ke-gon-gyō. 口語全譯華嚴經 ❷一卷 ❸存 ❹江部鴨村譯 ❺大正一二刊

華嚴經遺忘記 ❶(日)Ke-gon-gyō-i-mō-ki.(支)Hua-yen-ching-i-wang-chi. ❷四十卷 ❸存 ❹朝鮮蓮潭撰 ❼〔參考〕朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

華嚴經一乘成佛妙義 ❶(日)Ke-gon-gyō-ichi-jō-jō-butsu-myō-gi.(支)Hua-yen-ching-i-ch'êng-ch'êng-fu-miao-i. 華嚴一乘成佛妙義 ❷一卷 ❸存、大正四五・七七五 No. 1890、卍續二・八・四 ❹新羅代 ❹見登之撰 ❻華嚴一乘成佛妙義の下を見よ。

華嚴經一乘法界圖記 ❶(日)Ke-gon-gyō-ichi-jō-hok-kai-zu-ki.(支)Hua-yen-ching-i-ch'êng-fa-chieh-t'u-chi. ❷一卷 ❸存 ❹新羅大聖圓敎撰 ❼〔參考〕朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

華嚴經逸科 ❶(日)Ke-gon-gyō-ik-kwa.(支)Hua-yen-ching-i-k'o. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮霜峯撰 ❼〔參考〕朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

華嚴經會釋 ❶(日)Ke-gon-gyō-e-shaku.(支)Hua-yen-ching-hui-shih. 華嚴會釋 ❷四卷 ❸缺 ❹唐李通玄(貞觀九—開元一八 A. D. 635—730)述 ❼〔參考〕花嚴宗經論章疏目錄

華嚴經會釋 ❶(日)Ke-gon-gyō-e-shaku. ❷一卷 ❹凝然(仁治元—元亨元 A. D. 1240—1321)述 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第二

華嚴經會釋論 ❶(日)Ke-gon-gyō-e-shaku-ron.(支)Hua-yen-ching-hui-shih-lun. ❷十四卷 ❸缺 ❹唐李通玄(貞觀九—開元一八 A. D. 635—730)述 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第一

華嚴經慧藏疏 ❶(日)Ke-gon-gyō-e-on-sho.(支)Hua-yen-ching-hui-yüan-shu. 華嚴經慧藏師疏、續花嚴略疏刊定記 ❷十五卷 ❸存、卍續一・五・一—三 ❹唐慧苑(一嗣聖頃 A. D. 684—704—)撰 ❼〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄1878

華嚴經慧藏師疏 ❶(日)Ke-gon-gyō-e-on-shi-sho.(支)Hua-yen-ching-hui-yüan-shih-shu. 華嚴經慧藏疏、續花嚴略疏刊定記 ❷十五卷 ❸存、卍續一・五・一—三 ❹唐慧苑(一嗣聖頃 A. D. 684—704—)撰 ❼〔參考〕奈良朝現在一切經疏目錄1879

華嚴經圓宗文類 ❶(日)Ke-gon-gyō-en-shū-mon-rui.(支)Hua-yen-ching-yüan-tsung-wên-lei. 圓宗文類 ❷二十二卷(現在第一、一四、二二) ❸存、卍續二・八・五 ❹高麗義天(文宗九—肅宗六 A. D. 1055—1101)述 ❻圓宗文類の下を見よ。

華嚴經音義 ❶(日)Ke-gon-gyō-on-gi.(支)Hua-yen-ching-yin-i. 新譯大方廣佛華嚴經音義、華嚴音義、慧苑音義 ❷四卷或二卷 ❸存、縮爲一〇、守山閣叢書第九四 ❹唐慧苑(一嗣聖頃 A. D. 684—704—)撰 ❻新譯大方廣佛華嚴經音義の下を見よ ❼〔參考〕花嚴宗經論章疏目錄、奈良朝現在一切經疏目錄1874 ❾刊本(高大、寄・一・一六)(內閣)(谷大、長保・九八)(京大、一・二三イ・二、支哲)(帝國、二二三・

此为试读，需要完整PDF请访问： www.ertongbook.com